

## 2015 年度春季実態調査（関西）行程概要／ ミニ・フォトエッセー

大矢根 淳

### はじめに

2015 年度春季実態調査（関西）は、2016 年 3 月 14（月）から 17（木）の三泊四日、「関西における地域再生の種々の試み」をテーマとして、大阪の難波から堺、河内、大阪南港、姫路、たつの（龍野）、播磨をめぐる。部分参加者も含めて 21 名（所員 16 名、参与 5 名）の参加を得た。

今年度春の実態調査では北信方面を巡ったが、この度も例えばワイン醸造所など同趣旨の訪問先が用意されていて、年度内あるいは年度をこえて同一論題を考え続けることもできたし、関西ローカルそれも大阪独特の社会環境（商店街、お笑い・古典芸能…）にどっぷりつかれることもできた。さらに世界遺産・姫路城や登録をめざす百舌鳥・古市古墳群など、世界遺産を軸に据えた地域づくりの現場をじっくり歩く機会を得た。六次産業化や地域再生の試みは、宮寄晃臣研究会担当（所員:経済学部）の専らとするところであるが、宮寄所員は今回も事前に何度も現地へ赴き、現場との交渉・調整を重ねていただいたところで、この実態調査が実現している。この場を借りて、篤くお礼申し上げたい。

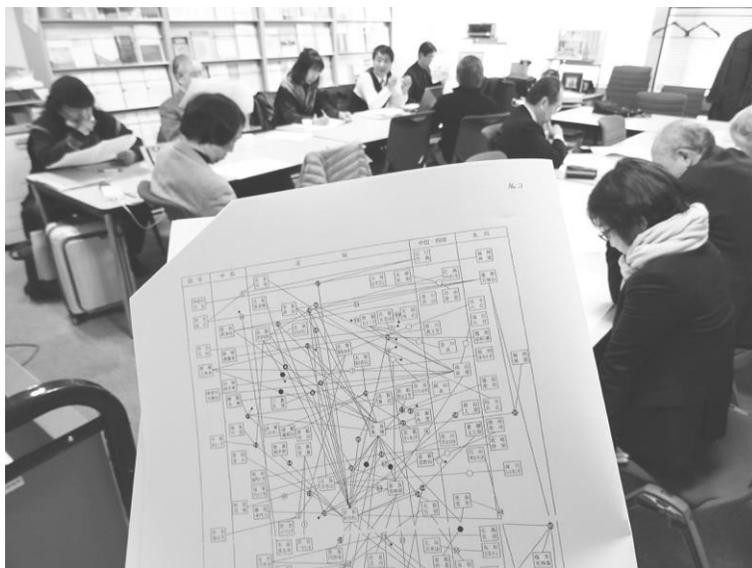


写真 1：事前学習

また特に今回は、古墳群について事前学習(3月11日)を踏まえたところでの現地踏査となった。事前学習では土生田純之所員(文学部歴史学科)に「百舌鳥・古市古墳群について」と題する研究会報告(写真1)をお願いした。多くの所員の参加を得て、詳細なレクチャー、活発な議論が交わされた。こうした歴史学的研究は、人文研マターとの思いこみも社研面々にはありがたいが、世界遺産を基軸とする地域創成を考える際には不可欠の知識である。学部授業で考古学そして「古墳からみた国家形成」を講義されている土生田所員は、この事前学習の中で「巨大古墳はただ単に壮大な無駄」との刺激的な言葉をおきながらも、いやいやそうではなく、そこには「被葬者の後裔と信じる人々の誇りと団結を促すという重要な意義を担っている」と説いて、参加者一同を深く納得させた。事前学習を経たところでさらに現地を歩きながら再び土生田所員にレクチャーを受けて感得したところを、本号では村上所長、宮寄所員が書かれているのでご覧いただきたい。

## 実態調査行程

この度の実態調査の行程を次に記す。

### 【初日：3月14日】

初日昼前、新幹線の新大阪駅・改札に一同、集合した。ここから地下鉄で天満駅に移動して、日本一長い商店街である「天神橋筋商店街」を歩いた。JR大阪駅から一駅のJR天満駅まで、南北2.6kmの間に約600店舗が立地して、この商店街は1丁目から7丁目までの構成を持ち、キタやミナミのように大阪観光スポットの一つともなっている。全国でシャッター商店街などと言われていることからすると、ここのこの賑わいには驚かされる。商店街のあらゆるところから看板、のぼりがせり出して賑わいを演出しているが(写真2)、大阪市都市景観委員会によると「様々な業態が集積し看板やショーウインドウに表出している様相と、生活に密着したにぎわいがある。中でも文楽人形をモチーフとした2丁目の立体看板は認知性が高く、景観資源として捉えられる」(大阪市・北区の都市景観資源：<http://www.city.osaka.lg.jp/toshikeikaku>)とされていて、平成22年3月、大阪市北区の都市景観資源に登録されている。都市の商店街の看板というと、屋外広告物法で「看板、立看板、はり紙及びはり札並びに広告塔、広告板、建物その他の工作物等に掲出され、又は表示されたもの並びにこれらに類するものをいう」(屋外広告物法第2条第1項)とされて規制の対象となるものとのイメージが強い。最近では歩道にせり出した自動販売機も見かけなくなった。ここ天神橋筋商店街の看板の数々は、激しく視界に飛び込んでくるものの決して歩行を妨げる形態ではない。巧みに賑わいを演出している。



写真2：天神橋筋商店街

商店街を歩いて、上方寄席の「繁盛亭」(写真3)に向かう。正式名称「天満天神繁盛亭」は、

「日本三大祭の一つ天神祭で有名な大阪天満宮を参拝して頂いて裏側、北へ抜けると、上方落語の定席、天満天神繁昌亭がございます。皆様のご厚志で60年ぶりに復活した噺の席は、おかげさまで開場以来大入りを続けております。上方落語協会所属の落語家が連日出演しております」(HPより：<http://www.hanjotei.jp/>)



写真3：上方落語の定席・繁盛亭

と、上方落語協会会長の桂文枝によって説明される寄席である。今回は昼席公演として仲入りを挟んで計10演目（写真4）を堪能した。

繁盛亭を後にして夕方、なんばのホテルにチェックして本日の公的スケジュールは終了。東京からの移動、そしてあいにくの雨の中、日本一長い商店街を踏破したことで一行、疲れたことと思われる。銘々食後、休息をとった。しかしながら今回は、この上方お笑いの世界の第二部がオプションとして用意されていた。「なんばグランド花月」（写真5）の吉本興業公演、吉本新喜劇などを観覧した。繁盛亭もそうであるが、やはりテレビではなく生で観覧する醍醐味はひとしお。さらに周囲に座る大阪のオバチャンの反応（笑いのタイミング）をも、我々は一つの新鮮なネタとして楽しんでいることに気づいた。

 <b>天満*天神繁昌亭</b>		昼席公演（午後1時～4時10分頃終演予定） 第495回 2016年3月14日（月）～2016年3月20日（日）	
14 日	桂三語 桂まめだ 笑福亭仁福 音曲亭輝輝 キングス 桂古坊 笑福亭呂龍	桂あやめ 桂果雀 桂福団治	豊米家大治郎
15 火	月亭天使 桂まめだ 笑福亭仁福 音曲亭輝輝 キングス 桂古坊 笑福亭呂龍	桂あやめ 桂果雀 桂福団治	仲入り 2時40分頃より
16 水	桂三語 桂まめだ 桂古坊 音曲亭輝輝 キングス 笑福亭仁福 笑福亭呂龍	桂あやめ 桂果雀 桂福団治	豊米家大治郎
17 木	桂三語 桂まめだ 笑福亭仁福 音曲亭輝輝 キングス 桂古坊 桂福団治	桂あやめ 桂果雀 笑福亭呂龍	豊米家大治郎
18 金	桂三語 桂まめだ 笑福亭仁福 音曲亭輝輝 キングス 桂古坊 笑福亭呂龍	桂あやめ 桂果雀 桂福団治	豊米家大治郎

写真4：繁盛亭の本日の演目



写真5：なんばグランド花月

【二日目：3月15日】

朝8時にホテルロビーに集合して、南海線で堺東駅下車、堺市役所に向かった。堺市役所では、「世界遺産登録をめざす『百舌鳥・古市古墳群』の取り組み」と題して、詳細なパワーポイントデータおよび各種パンフレット等をご用意いただきレクチャーを受けた（写真6）。堺市文化観光局世界文化遺産推進室の室長・宮前誠さん、主幹・十河良和さん、主査・立道勝広さんに詳細にレクチャーいただき、大変お世話になった。

レクチャーの前には、最上階の展望ロビーから古墳群の立地をご説明いただき、一同記念撮



写真6：堺市文化観光局世界文化遺産推進室



写真7：堺市役所展望ロビーにて



写真8：土生田所員による解説つき踏査

影（写真7）。ここでいただいた『百舌鳥古墳群ワーキングマップ～歩いて知るいにしへのロマン・謎・神秘～』（写真8）は、この後、この日の午後、土生田所員の案内で古墳群を踏査する際に、各自手許で広げて地図として使いとても重宝した。

なお、社研ではここ堺市をフィールドとした研究を何度か行っている。最近では、2008年度夏季実態調査でお世話になっている（その成果は社研『月報』2008年度・2+3合併号）。また、それと前後して、社研特別研究助成のグループ研究で現地で度々フィールドワークをさせていただいて、2008年度末に叢書12として専大出版局より『周辺メトロポリスの位置と変容』（宇都榮子・柴田弘捷 編）を刊行している。

レクチャーの後、チャーターバスで移動して、百舌鳥古墳群（仁徳天皇陵：写真9）から土生田所員の案内で踏査が始まった。「ここからはしばらくは歩きますが、見ての通り、この辺りは平地ですから、それほど苦にはならないと思います」とのこと、一同、和気藹々と歩き始めた。ところが考古学者の基礎体力は、デスクにかじりついて本を読んでいる面々とは桁が違ふことにすぐに気づかされることとなる。「そこに見える古墳を少し俯瞰してみましよう」ということで、線路脇の14階建てマンションの非常階段をズンズン昇っていく。「えっ!? エレベーターじゃないの?」、7階あたりで途中棄権する所員も出だす。このマンションは古墳研究に就く者がしばしば闖入させてもらっているもので、だから礼儀正しく静かに昇らなくてはならないとのこと（階段がキツイと叫声をあげるのは厳禁!!）。最上階から古墳を俯瞰し、その位置・方向を説明していただいて（写真10、写真11）、ここまで昇って来る意義を納得。



写真9：仁徳天皇陵よりスタート



写真10：14階建てマンションを上り(1)



写真11：14階建てマンションを上り(2)

昼食は踏査途上の国道 170 号線沿いのうどん蕎麦居酒屋「重市」(写真 12)。午前中の踏査でお疲れの方は、食後もここの一室を借りてそこでお待ちいただくこととなった(ぜんざいも美味とのこと)。

一行は午後、土生田所員の案内で次は古市古墳群の踏査に出発した。小高い丘に登ると、辺



写真 12 : 昼食は重市で



写真 13 : まちなかいたるところに古墳が (1)

りにいくつもの古墳、周囲の山並みが目に入る。この丘も古墳の一つ、そしてその後に詣でた神社(写真13)も古墳の一つに建てられたものだとのこと。古墳が日常生活のいたるところにデフォルトとして存在している。国道高架橋の下で、工事現場のように見えるが(写真14)、これも一つの古墳だという。

重市待機組と合流して、夕方、チャーターバスで河内ワインの工場見学(写真15)に向かう。



写真14：まちなかいたるところに古墳が(2)



写真15：河内ワイン

ここ河内で採れるブドウは、もちろんここで醸造されて貴重・高価なワインとなるが、少ないブドウが甲州に買い取られてそこで醸造され、甲州ワインとして売られることになるという。在京の社研メンバーは甲州ワインには馴染みが深いが、河内ワインについて知るものは少なかった。多くのワインを試飲させていただく(写真16)。河内地域(柏原・羽曳野・太子町・八尾)には現在、7社のワイナリーがあるが、「河内ワイン」として販売しているのは、ここ(株)河内ワインのみであるという。他の醸造所、例えばカタシモワイナリーは「河内ワイン レギュラー」、「カタシモ河内ワイン」と、飛鳥ワイン(株)は「河内産ワイン」などとブランディングしている。

河内ワインにはワイナリー直営レストラン「金食堂」が併設されていて、一行はここでディナーとなった。河内ワインの代表取締役専務・金銅真代さんは経営につく傍ら、母校・関西学院大学の教壇にも立つ。フランス語に長けていて、フランス・ブルゴーニュでフランス語による創作落語を披露した経験を持つ。桂三枝からワインにちなんで「ロマネ・金亭(コンテイ)」という芸名をもらっている。今度もフランス語でシャンソンや浪曲まで披露していただいた(写真17)。すばらしいフランス語に感動して、こちら社研サイドからも飯沼所員よりフランス語で歓声が飛んだ。もちろん料理も格別で、宮寄所員が特別にリクエストしていたローストビーフを含むコース料理を堪能。社研の奇才、吉田所員は、旅先でスラスラと水彩画を描く(編集後記を参照のこと)。2004年度春季実態調査(北京)でも円卓の中華料理を描き主客騒然とさせたものだが、この度もすばらしい料理の数々をその場で描き、金銅氏を驚かせた(写真18)。



写真16：河内ワイン各種の試飲



写真 17：金銅専務によるフランス語落語・浪曲



写真 18：社研・吉田所員の描くディナー

**【三日目：3月16日】**

朝8時ホテル発で、地下鉄を乗り継ぎ、大阪南港・コスモスクエアにある大阪府商工労働部商工労働総務課リサーチグループ（大阪産業経済リサーチセンター）に向かった。大阪経済の動き、特に、本社機能の東京集中が進む中での大阪府産業政策レベルの対応のあり方、そして、

来阪外国人旅行者数の増大、大阪の地域ブランド戦略の動向などについてレクチャーしていただいた。大阪産業経済リサーチセンターからは、総括研究員・北出芳久さん、主任研究員・須永努さん、山元敏也さん、町田光弘さん、松下隆さん、そして副主査・中井章太さんが、詳細な資料（『大阪の地域ブランド戦略のあり方』や『産開研論集』抜き刷りなど）を用意・配布してレクチャーしていただいた（写真 19）。非常に限られた時間内であったことで十分に質疑を行うことができなかつたのは残念である。本号・町田論文や高橋論文をご参照いただきたい。



写真 19：大阪産業経済リサーチセンター



写真 20：姫路城

移動の途中で弁当をかき込み、新幹線で大阪から姫路に移動して、午後いっぱい世界遺産・姫路城を巡った。駅から真っ直ぐ北に延びる大手前通りの向こうに姫路城がそびえる。石垣が14.85m、建物が31.5mなので10数階建てを昇る観覧となる。銘々、体力・興味に応じて探訪することとなった(写真20)。夕食は銘々声を掛け合って、私は地元食材を使う居酒屋に。

#### 【四日目：3月17日】

最終日は朝9時に姫路駅前のホテル日航をチャーターバスで発ち、まず最初は、ヒガシマル醤油の見学に向かった(写真21)。快活な、ヒガシマル醤油・営業連絡部・顧客サービスチーム・主任・松本慎次郎さん(写真22)、これを見守る副部長・村田達雄さんに丁寧に工場をご紹介いただき、その後、会議室にて、専務取締役・生産本部長・薦田裕さん、製造部部长・一鷹栄二さんより、うすくち醤油の醸造・素材調達・営業…、そして地域活性化と農商工連携の連関について詳細なレクチャーをいただいた(写真23)。

この後、近くの「うすくち龍野醤油資料館」を見学し(この資料館の入館料はなんと10円!!(写真24))、合わせてこの界隈の龍野の武家屋敷を散策した。

ここから移動して、「揖保の糸資料館・そうめんの里(播磨手延素麺生産者協同組合)」に向かい、まずはここで昼食として素麺定食をいただき、その後、資料館を見学した(写真25)。

14:40、チャーターバスは資料館を発ち姫路駅に。バス下車で一同解散となった。多くの参加者は姫路から新幹線に乗車して帰京したが、今回は現地集合・解散であったため、この後、自身の調査企画をつなげている所員もあって、それぞれ帰路につくこととなった。



写真21：ヒガシマル醤油



写真 22 : ヒガシマル醤油・丁寧なご案内



写真 23 : ヒガシマル醤油・詳細な解説



写真 24 : うすくち龍野醤油資料館



写真 25 : 損保の糸資料館・そうめんの里